

次期スポーツ推進計画 体系図(イメージ)

	10年後の理想像
子どものスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びなどを通じて、体を動かすことが好きな子どもたちが増え、運動やスポーツが楽しいものだと体で感じるようになっていく。【幼・保】 幼児期からの運動遊びに関する取組が県内各地で活発になっている。【幼・保】 障がいの有無にかかわらず、子どもたちが一緒に運動遊びを楽しんでいる。【幼・保・小学生・中学生】 障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられている。【小学生・中学生】 運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に校庭や公園などで遊ぶ子どもたちが増えている。【小学生】 体育学習を通じて、運動を楽しむ資質や能力を学び、運動をする楽しみや喜びを実感している。【小学生】 地域や学校で子どもたちが体を動かして遊ぶ場所が整備されている。【小学生・中学生】 生徒一人一人が体育学習を通じて、運動に関する知識や技能を身に付け、運動をする楽しさや喜びを実感している。【中学生】 中学生の運動部活動が適切に行われ、部活動を通じてスポーツの楽しさや喜びを味わい、より豊かな学校生活を送ることができている。【中学生】
生涯スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが安全に遊べる場所が身近にあり、外で楽しく遊ぶことができる環境が整っている。【幼・保・小学生】 地域のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に積極的に参加している。【小学生】 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが積極的に開催されている。【高校生】 余暇時間等を利用し、自ら様々なスポーツに挑戦し、スポーツを楽しむ能力・習慣が身についている。【高校生】 余暇活動として仲間とスポーツを楽しんだり、積極的にスポーツイベントに参加するなど、スポーツをする習慣が身に付き、充実したスポーツライフを送っている。【大学生】 地域のスポーツに積極的に参加し、総合型地域スポーツクラブなどでスポーツを楽しんだり、またスポーツボランティアとして地域のスポーツを盛り上げる原動力となっている。【大学生】 仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。【高校生・大学生・20～30代・40～50代・60代～】 育児や仕事の合間や休日等の余暇を有効に使い、家族や仲間とスポーツ活動を楽しみ、心身の健康を保っている。【20～30代】 障がいの程度に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。【20～30代】 総合型地域スポーツクラブなどへの参加が増え、地域のスポーツを支える人材や指導者候補者が地域で育っている。【20～30代・40～50代】 仕事などの合間にできる手軽な運動を日常生活に取り入れ、体力や健康を維持している。【40～50代】 地域のスポーツに積極的に参加し、総合型地域スポーツクラブなどでスポーツを楽しんだり、またスポーツボランティアとして地域のスポーツを盛り上げる原動力となっている。【20～30代・40～50代】 障がい者スポーツ経験者が指導者として地域で活躍し、地域スポーツイベントなどを通じて、障がいへの理解が深まり、障がい者が地域でともに暮らす意識が醸成されている。【40～50代】 年齢や体力に応じて、適切なスポーツ活動を継続することで余暇の充実と健康の増進を図っている。【60代～】 一人でも手軽にできる運動が地域や家庭で浸透し、日常生活の中に取り入れることで、生活習慣病などを予防し、健康を維持しています。【60代～】 年齢や体力に応じて楽しむことのできるスポーツの選択肢があり、実践するための機会や指導者が地域で確保されている。【60代～】
競技スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 全国や国際舞台で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。【小学生・中学生・高校生】 トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室などを通じて、トップスポーツへ夢や憧れを抱いている。また、トップアスリートの指導を受けることで競技力が向上している。【中学生】 運動部活動や地域のスポーツなどに積極的に参加し、スポーツの楽しみや喜びを実感するとともに、全国大会や国際大会で活躍し、県民に夢や希望、感動を与えている。【高校生】 競技スポーツに取り組む学生が、練習設備や支援体制の整った環境の中で、練習に取り組むことができ、最先端の医学サポートや、より専門的な指導を受けることで競技力がさらに向上し、全国大会や国際大会で活躍している。【大学生】 アスリートが競技引退後も活躍する場があり、自身のセカンドキャリアに希望が持てる環境が整備されている。【大学生・20～30代】 社会人競技者として地域や企業に支えられながら、夢に向かって競技を続けている。また、競技引退後には、トップアスリートの経験や技術を活用する仕組みができている。【20～30代】 ICTや最先端スポーツ医・科学を利用したトレーニングが一般競技団体間に普及し、より効果的・効率的な選手育成が図られている。 異種競技間の交流や合同トレーニングの機会が増え、異種スポーツの知識や技術の活用や、選手のトランスファーのきっかけになっている。 企業等がアスリートの競技継続に対する理解が深まり、競技の継続を支援する雰囲気醸成され、アスリートが競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。
スポーツの持つ多面性の活用	<ul style="list-style-type: none"> 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子でスポーツを楽しめる機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。【幼・保・20～30代】 地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、観るスポーツの楽しさを実感している。【小学生・中学生・高校生】 地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、観るスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。【大学生・20～30代・40～50代・60代～】 学校や地域でスポーツイベントが活発に開催され、様々な場面でスポーツを楽しむことができる環境が充実している。【小学生・中学生・高校生】 気軽に参加できるスポーツイベントなどが地域で開催され、スポーツに親しむ機会が充実している。【大学生・40～50代・60代～】 プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。【小学生・中学生・高校生・大学生・20～30代・40～50代・60代～】 スポーツ大会やスポーツイベントを通じて、県内外・国内外問わず様々な地域間の交流が盛んになっている。 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地から観光客が訪れている。 企業等がアスリートの競技継続に対する理解が深まり、アスリートの正社員採用が普及することで、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。

今後5年間で重点的に取り組む項目(イメージ)

子どものスポーツ機会の充実

- 幼児期からの子どもの体力向上策の推進
- 学校の体育に関する活動の充実
- 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

生涯を通じたスポーツ機会の充実

- ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進
- 地域のスポーツ活動の推進
- 地域スポーツ施設の充実

全国・世界で活躍する選手の育成

- 本県での開催が予定される全国大会に向けた選手強化
- 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上
- スポーツ界の好循環の創出

スポーツ持つ多面性の活用

- スポーツイベント・大会等を活用した地域の活性化
- 長野県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの推進
- スポーツを通じた人々の交流促進

施策の展開